

委員： この未来プランを見て子どもの貧困状態の改善に関して実にたくさんの施策が出されているので、全部見切れないほど今回たくさん出ていますけれども、この中で令和元年度に対して令和2年度の予算が増えているところもあれば減っているところもあってですね、よく分からないのですけれども、倉敷市として令和2年度は令和元年度に対して子どもの貧困に対して予算を全体の予算としてどのくらい増やしているのか。というところをちょっとトータルで教えてもらえたらと思うのですが、個別の施策ではなくてですね、トータルでいくらぐらい予算を増やして対応していくのか、その辺がもし分かれば教えてやってください。

会長： 施策ごとということではなくて、貧困というテーマで全体でということですかね。答えていただけますでしょうか。いかがでしょうか。

事務局： 今回の実施計画に掲載いたしましたのは冒頭申しましたとおり、事業として全体68事業を新規とさせていただいております。再掲が多いんですけれども。

そのなかで、貧困というカテゴリーで44に実は絞って掲載しております。事業計画を検討する中であってですね、様々な施策が子どもの貧困に関わってまいりますので、その事業すべて網羅して掲載するのはですね、いささかボリュームもありますし、なお言えませんが、大概の施策は子どもの貧困対策に通じてきますし、先ほど障がい福祉課からもありましたが、インクルーシブル、定型発達の子もそうでない子も同じ健全育成の中で過ごしていくと、それにちょっと手を足させていただくことが色々な関係者の方や、子どもも変化していくだろうということだと思えますね。子どもの貧困もそうした色々な施策が関わってくるので、今回ここに絞らせていただいて掲載したもののだけが子どもの貧困対策ということは中々言いにくいところではあり、その掲載事業だけで傾向を測るのは困難なんですけれども、この子どもの貧困対策で掲げた事業に絞ってということであればですね、今、単純に集計できませんので、そういった回答が必要とあれば、子どもの貧困対策として計上した事業の令和元年度と令和2年度の比較表のようなものを、次回の審議会にお示しさせていただきたいというふうには考えてございます。

大きい方向としてはですね、子どもの貧困対策としてしっかりとやっていこうということで今回掲載しておりますので、事業や、大きいカテゴリーとしては子どもの貧困対策事業というのは拡大という方向であるのではなかろうかというふうに考えてございます。ただ、ここに挙げた事業だけを集計するとどのような傾向にあるのかこの場で申し上げにくいんですけれども、次回の審議会において対比表のようなものをですね、お示しさせていただけたらというふうに考えてございます。

以上でございます。

会長： それでは次回、掲載事項についての予算の増減というのをお示しいただけるようであれば、次回資料としてお願いできますでしょうか。よろしくお願いたします。